

人は自らの誠実な生き方に充実感を覚えます。他者からの思いやり心が温かくなります。自然の崇高さに心奪われます。社会で生きていく上での規範の大切さを考えます。このように道徳の時間には「ひと・もの・こと」の中にあるさまざまな道徳的価値について、仲間と共に深く学び合つのです。

道徳の時間の在り方とは

保護者の中には「道徳の時間なんて必要ない」「道徳を勉強しても役に立たないし、効果なんて期待できない」と考える人もいるのではないのでしょうか。これは保護者のみならず、教員にも言えそうです。だから、時間割に道徳の時間が入っているのに、実際には実施されていない学校も散見するのです。そのような実態を踏まえて今、「道徳の教科化」が議論されています。

さて、ここで言う「効果のない道徳」とは何を指すのでしょうか。おそらく価値の押し付けの授業であったり、教員の用意した答えに導くだけの形式的な道徳であったりするのでな

いでしょうか。つまり、子どもたちにとって「楽しい授業」「充実感のある授業」「学ぶことによつて自浄効果を生むような授業」になっていないのです。

では、いったいどのような授業が求められているのでしょうか。授業参観に行つて「なるほど！子どもたちの言うことももつともだ」と感心したり、「うん」と大人でも考え込んだりするような授業ではないのでしょうか。そのためのチェックポイントを下図に示しています。

兵庫教育大学の取り組み

兵庫教育大学教職大学院（専門職学位課程）では、共通基礎科目に「学校における心の教育の実践研究」を設定し、専門科目（必須科目）として「道徳教育の諸理論と道徳授業づくり」「道徳授業の教材及び指導過程の実践開発」を開講しています。現職教員の大学院生やこれから教員を目指すストレートマスターらは、道徳教育に関わる課題研究に取り組み、十分な成果を挙げています。

楽しい授業、学びがいのある授業のポイント

- ▶ ねらい（道徳的価値）を明確にすること
- ▶ 発達の段階や学年段階に対応していること
- ▶ 教材文の構成、いわゆる“起承転結”等を十分理解していること
- ▶ 道徳の資料と国語の違いに留意すること
- ▶ 主人公の心が変容した場面を中心に考えさせること
- ▶ 副詞、副詞句に注目した発問を考えること

その段階で、一見分かっているようで、実は分かっていることを学べるように…

国語…言語に対する全てのことを学ぶ。
道徳…一番大事なことは書かれていない。そのことを共に考えることができる発問づくりを。

「その時、主人公は心の中で何と語り掛けているでしょう」「どんなことを考えているでしょう」「～に何をみたのでしょうか（気付いたのでしょうか）」

副詞、副詞句を尋ねることにより、多様な子どもの意見が期待できます。多くの場合、中心発問にふさわしい副詞、副詞句は最後から数行前に！「～の気持ちはどうか」と心情を問うことを繰り返し過ぎると、授業が平板になりませんか。基本発問が多くなり過ぎると、教員が授業を引っ張ってしまうことになりませんか。



道徳教育の役割

学校における道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものです（改正教育基本法より）。

この道徳教育の目標は、学習指導要領「道徳編」第1章総則の第1の2に示すところにより、「学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこと」と示されています。また、道徳の時間については「以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導」

によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとされています。

道徳の時間で何を学ぶのか

前述したような道徳教育の充実には、学校教育全体を通してよりよき人格の完成を目指して行わなければならないません。その要の時間として「道徳の時間」があります。

では、道徳の時間とはどのような時間なのでしょうか。「説教の時間?」「懺悔の時間?」「分かりきった建前を言い合う時間?」「でしようか。当然のことながら全部違います。一言で言うところ「豊かな心を育むための時間」です。そして「道徳的価値の大切さを学ぶ時間」なのです。早急に道徳的行為や道徳的習慣を目指す時間ではありません。

教育最前線

現状と課題から見る 道徳教育の重要性

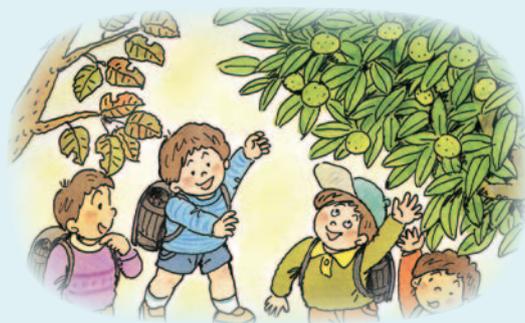
価値観の多様化や人間関係の希薄化に伴い、家庭や地域の教育力、子どもたちの規範意識や自尊心などに課題が生じています。いじめや不登校、そして体罰の問題も喫緊の課題として各所で議論されています。さまざまな課題の解決に向け、今、道徳教育の充実が求められています。



よど さわ かつ じ
淀澤勝治

生徒指導実践開発コース准教授

一郎たちの気持ちに寄り添いながら読み進めていく。そして、自分たちのいけなかつたことに気づいたところが授業の山場になるように発問構成を考えていく。ただし、主人公たちのしていることに共感させながら「そんな気持ちでよく分かるなあ」となりきらせながら進めていく



余韻のある終末を心掛ける（無理に現実世界には返さず、物語の世界に浸らせる。そうして心を耕していく）

「みかんの白い花がたくさん咲いているのを見て、一郎たちはどんな気持ちになっているでしょう？」

●きれいだなあ

●早く秋にならないかなあ

●たくさん取れそうだな

「一郎が手を伸ばしたとき、どんなことを考えたでしょう？」

●やっとなんか大きくなった

●見つかったら大変だな

●おいしそうだな

●黙って取るのはよくないかな

「みかんが一つもないのを見て、一郎たちはどんな気持ちになったでしょう？」

●せつなく札の通りに待っていたのに…

●和尚さんにだまされた

●昨日のうちに取っておくんだ

「一郎たちは和尚さんの手紙を読んでどんなことを考えたでしょう？」

●和尚さんは優しいなあ

●黙って取るうとしてごめんなさい

●謝りに行こう

「この後、一郎たちはどうしたと思いますか？」

●きつと謝りに行つた

●和尚さんと一緒に縁側で夕日を見ながらみかんをおいしそうに食べた

「『すっぱい』の意味を考えましよう」

一郎たちの気持ちに寄り添いながら読み進めていく。そして、自分たちのいけなかつたことに気づいたところが授業の山場になるように発問構成を考えていく

◎優れた教員ならば子どもたちをうまく導いていくのが、そうでない場合は、先の見えたつまらない授業になる可能性も高い



「みかんを取ろうとして、和尚さんにしかられたとき、一郎たちはどんなことを考えたでしょう？」

●もうやめよう

●けちだな

●逃げられてよかった

●和尚さんに見つからないようにこっそり来よう

「一郎たちは和尚さんの書いた札を読んで、どう思ったでしょう？」

●札があつても取ろう

●まだ何日も待たなければいけないのか

●本当かな？

●きつとくれるんだ

「みかんが一つもないのを見て、一郎たちはどう思ったでしょう？」

●早く取ってしまったよかったです

●和尚さんにだまされたずるいなあ

「一郎たちは和尚さんの手紙を読んでどう思ったでしょう？」

●和尚さんは優しいなあ

●黙って取るうとしてごめんなさい

●謝りに行こう

ありきたりの最後になり、ややもすると教員の説話が価値の押し付けになりがちになる

「今までうそやごまかしをしようとしたが、しなくてよかったと思ったことはありますか？」

●何人かが発表する

教員が説話して、これからの生活指導に結び付ける

学 校 現 場 の



これまで附属小学校では、道徳的心情を育てるために読み物資料を使って人物の心情や行為について考えることや、道徳的判断力を高めるために価値葛藤場面のある教材でどのように判断するかモラルジレンマ授業を行ってきました。また、道徳的実践意欲と態度を培うために他教科や特別活動などと関連を図った単元化に取り組んできました。

ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるためには、資料を読み合い、話し合う場面において発問を工夫し、子どもの多様な考えを引き出すようにすることが大切です。中心場面では、ワークシートを活用して自分の考えを持ち、そこから交流を行い、自分とは違った友達の意見や気付かなかった考え方にふれることで、道徳的なものの方見方・考え方を広げたり深めたりすることを重視しています。

昨年度は評価活動に取り組みました。道徳の授業で培った道徳的実践力が日常的道徳実践へと結び付いていかなければなりません。道徳の評価については難しさのあるところですが、子どもの自己評価を中心に、友達からの視点（相互評価）も含めて自分を見つめさせるようにしてきました。生活を振り返る観点を示し、日常生活における道徳的行為の現れを意味付けや価値付けを行い、学級全体に広げるようにしてきました。

道徳は即効性を求めず、子どもの成長を緩やかに見守るスタンスが必要であると感じています。

友達の意見に ふれることで 道徳的なものの 考え方が広がる



ただ まさ よし たか
忠政善貴さん

兵庫教育大学附属小学校教諭

今どきの 道徳授業とは

学習指導要領が改訂されるたび、道徳の授業方法も変わってきました。「みかんの木のてら」という教材を使った授業でも、一昔前と現在では、児童への発問の内容が大きく変わったのが分かります。※発問例は淀澤の私案です

みかんの木のてら

作・岡本良雄 絵・西村達馬

五月のおわりごろのことです。
いちろうたちが、学校のかえりにおてらのまえをとおりかかると、いいにおいがします。見ると、おてらの中のみかんの木に、白い花がいっぱい咲いていました。「この花が、みかんのみになるんだよ。」と、さんじがいました。(いいなあ。みがなつたらとって、たべてやろう。)、みんなはおもいました。

あきになりました。みかんの木には、青いみかんのみがなつて、すこしずつ大きくなつていきます。ある日、いちろうたちは、みかんの木の下にあつまりました。いちろうが、そつと手をのぼすと、「こつっ。」と大きなこえがして、本どつこのしやうじがガラツとあきました。みんなは、ばらばらとにげました。

つぎの日も、みんながみかんの木の下にあつまると、木のえだに、こがかいたふだが、さがつていました。「みかんをとるな。まだ、すつぱいぞ。」みんなは、こそそこそとかえりました。また、つぎの日いくと、こんどは、「あと四、五日だ。まだとるな。」と、かいてありました。「あと一日、あすまでおまち。」こんなふだがかけられたつぎの日、おてらの中にはいつていつたいちろうたちは、「あつ。」と、こえをたてました。みかんが、一つもないのです。「おしやうさんにだまされた。」

しかたなくかえりかけたとき、まさおときよしが、かごをみつめました。「あつ、みかん。」大きな金いろのみかんがたくさんはいつていました。その上には、こがかいたかみが「まいおいでりました。」
「おいしくなつたよ。みんなでおあがり。ぬすんでたべたら、すつぱいすつぱい。みかんの木のてらのおしやう」

学習研究社「みんなのどうとく2年」(平成元(1989)年より)

● 児童(小学2年生)の反応

授業者のねらいと
実際の効果

物語への導入(この時間に考えていく教材への導入はするが、価値の押し付けはしない)
※なるべく短めに

● 児童はヒントをもらいながら楽しく授業に入り込む

現在

主な発問と
予想される児童の反応

「この花を見たことがありませんか?何の花だと思ふ?」(みかんの花の画像あるいは黒板をパネルシアターのように活用してヒントも出す)

● 口々にいろいろな果物の名前を言う
● 何だろ?と不思議そうにする
● 当てる喜んでたり食べたそうにしたりする

一昔前

授業者のねらいと
実際の効果

価値への導入(この時間に考えていく価値についての課題意識を掘り下げる)

● 児童は先生の期待する答えを探すが、今までの自分を振り返って反省を促される

主な発問と
予想される児童の反応

「うそやごまかしをしてしまったことはありますか?そのときはどんな気持ちがありましたか?」
● ばれないかどうかどきどきする
● (何も言えない、言わない)

「この話を聞いてどう思いましたか?」
● 黙って取るうとしたらだめだ
● 和尚さんは優しいなあ

取 り 組 み

「自分を大切に、他を思いやる心を育てる道徳の時間」を目指して毎年2回、道徳研修会を開いています。読み物資料で、主人公が道徳的に変化した場面はどこか、そのきっかけとなった出来事(助言者)は何かを捉え、中心発問を設定します。そして、中心発問で予想される生徒の反応をできる限り考え、中心発問につながる基本発問を整理していきます。一人では頭を抱えてしまうことも、複数で話すことが大きな刺激になり、教員自身が資料を読むことを楽しいと思えるようになってきました。

道徳の時間では、教員の予想した答えに誘導するようなことはせず、待つ時間を大切に、生徒のつぶやきを引き出せるようにしています。Teacherではなく、Catcherに。「道徳の時間は自由に考えを言っていいんだ」と自分の言葉で述べ、他者の意見からさらに考えを深められるようになり、誰もが一人一人の級友を大切にしようとする学級になることを実感しています。

年度末に行っている「道徳・人権アンケート」の「あなたは道徳の時間が好きですか」という問いに、ある生徒は、1年目「どちらでもない」理由として「話を読んでも、『悪口を言わないでおこう』と思ったり実行できたりする人は限りなくゼロに近い。自分もそうだ」と書いていました。何事においても誠実に取り組む生徒です。翌年、この生徒の担任になりました。1年を終え、彼は同じ問いに「好き」と答えました。「道徳の時間は、人の気持ちを考え、友達の考えを聞けるとても大切な時間だ」と。

いい資料、教員のやる気は生徒に通じると信じ、これからも道徳教育の充実を図っていきたいと思います。

Teacherではなく Catcher 生徒のつぶやきを 引き出すことが大切

よし だ かず え
吉田一恵さん

大学院専門職学位課程
生徒指導実践開発コース1年
(姫路市立書写中学校教諭)

